

2019年度 教員実績

凡 例

教員業績は、表象文化論コース、比較文学比較文化コース、文化人類学コースの順に、そして教員名は五十音順で並べられている。各業績を、以下のように、3つの大きな項目に分けて紹介している。

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
 - 1. 単著
 - 2. 編著
 - 3. 共著
- (2) 論文
 - 1. 単著
 - 2. 共著
- (3) 学会、研究会発表
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等その他

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
- (2) 後期課程担当科目
- (3) 大学院担当科目
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

3. 学内行政業務

2019年度に担当した主な役職、学内委員、特記すべき業務

表象文化論コース

||| 朝倉 友海

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

- ・ *The Dao Companion to Japanese Buddhist Philosophy*, ed. by Gereon Kopf, Springer, July 2019. (分担執筆、範囲：»Interaction between Japanese Buddhism and Confucianism,» pp. 205-234)
- ・ 『近代日本哲学と東アジア』、藤田正勝・林永強（編）、臺大出版中心、2019年6月（分担執筆、範囲：「呼应性と意味の論理：山内得立と高山岩男の考察をてがかりに」、147-173頁）
- ・ 『よくわかる哲学・思想』、納富信留・檜垣立哉・柏端達也（編）、ミネルヴァ書房、2019年4月（分担執筆、範囲：「西田幾多郎」・「田辺元」・「九鬼周造」・「三木清」・「和辻哲郎」、134-143頁）

(2) 論文

1. 単著

- ・ 「意味理論の別の可能性：ドゥルーズと可能世界意味論の交錯」、『神戸外大論叢』70(1)、67-85頁、2019年4月

(3) 学会、研究会発表

- ・ »Nishida Kitaro and Mou Zongsan on the logical genesis,» International Society of East Asian Philosophy (明治大学)、2019年12月
- ・ 「東アジア哲学の理念と牟宗三」、中国社会文化学会（東京大学）、2019年7月
- ・ »Will and action in Nishida's philosophy,» 東亞倫理学：意志与行為（国立台湾大学）、2019年4月
- ・ »Nishida and Mou Zongsan on logical categories,» 東亞視野下的邏輯（国立政治大学）、2019年4月

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・ »Thomas Kasulis, *Engaging Japanese Philosophy* [Book Review],» *International Journal of Asian Studies* (Cambridge University Press) 16(2) : 158-160, July 2019.

2. 教育実績

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

哲学概論、哲導、西洋哲学史、日本思想史、研究指導（神戸市外国語大学外国語学部）
文科比較研究Ⅰ（神戸市外国語大学外国語学研究所）、日本哲学史（甲南大学文学部）

3. 学内行政業務

前任校において学内行政業務に従事

||| 一條 麻美子

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目：初修ドイツ語、総合科目・表象文化論

- (2) 後期課程担当科目：言語芸術論II
- (3) 大学院担当科目：表象文化史II
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

||| 沖本 幸子

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
 - 3. 共著
 - ・地域文化の未来を考える研究会編『続けるヒント』公益財団法人サントリー文化財団、2019年9月
 - ・松岡心平編『中世に架ける橋』編集委員、森話社、2020年3月
- (2) 論文
 - ・「ヌエ考—怪鳥の声をめぐって」松岡心平編『中世に架ける橋』森話社、pp.57-70、2020年3月
- (3) 学会、研究会発表
 - ・「ヌエ考—怪鳥の声をめぐって」東京大学中世文学会、2019年9月20日
 - ・鼎談「地域文化を思う」パネリスト、サントリー文化財団40周年記念フォーラム in 福島「地域文化 続けるヒント」、於福島県文化センター、2019年10月20日
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
 - ・記事：「染織家石垣昭子と舞踊家新城知子のコラボレーション—八重山舞踊の衣装を創る」『月刊やいま』305号 pp.22-27、南山舎、2019年10月
 - ・エッセー：「題目立と復活《石橋山》」京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター編『語りの立体化—そして—復曲—狂言、能、題目立—』pp.7-11、2019年11月
 - ・エッセー：「座る身体の行方」『アスティオン』91号、CCCメディアハウス、2019年12月
- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他
 - ・題目立《石橋山》復活上演(学術協力、解説)京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター第55回公開講座、一般社団法人東洋音楽学会令和元年度公開講演会、於京都市立芸術大学講堂、2019年11月16日

2. 教育実績

- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
 - 日本芸能論、祝祭論、文化基礎演習、文化演習(青山学院大学総合文化政策学部)
 - 文化伝達論、伝統芸能論、プロジェクト演習(青山学院大学総合文化政策学研究科)

3. 学内行政業務

前任校において学内行政業務に従事

||| オデイ ジョン

1. 研究・研究成果の公刊

- (3) 学会、研究会発表
 - J. O’Dea “Perceptual Constancy and the Sensation/Perception Distinction”, International Conference on Phenomenology and Philosophy of Mind, May 26, 2019, at Huaqiao

University.

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
教養英語、総合科目(L)
- (2) 後期課程担当科目
Historical Introduction to Analytic Philosophy
- (3) 大学院担当科目
Philosophy of Mind

3. 学内行政業務

グローバルコミュニケーション研究センター長補佐、ALESS/ALESA運営委員、ALESS/ALESA副マネージングダイレクター

||| 加治屋 健司

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
3. 共著
 - ・三浦篤、加治屋健司、清水修編『シンポジウム「宇佐美圭司《きずな》から出発して」全記録』(東京大学、2019年).
- (2) 論文
 1. 単著
 - ・「宇佐美圭司《きずな》の廃棄と画像の再制作」『現代美術の保存と修復——その理念・方法・情報のネットワーク構築のために』(科学研究費補助金(基盤研究(A))研究成果報告書、2020年).
 - ・「絵画化する装飾 カラーフィールド絵画とそのデザインの文脈」『美術フォーラム21』40号(2019年11月)74 - 80頁.
 - (3) 学会、研究会発表
 - ・「フォーマリズムとその彼方へ」(「形」、東京、BUoY、2020年2月9日).
 - ・“Weather and/as Media,” Asia Theories Network Tokyo Workshop, “Unpredictable Weather,” University of Tokyo, Tokyo, December 13, 2019.
 - ・「パフォーマンス／アートのアーカイヴの可能性」(東京、早稲田大学、2019年12月9日).
 - ・「ソーシャル・エンゲージド・アート概論」(東京大学「社会を指向する芸術のためのアートマネジメント育成事業」、東京大学情報学環本館、2019年7月25日).
 - (4) 書評、記事、エッセー、その他
 - ・「東大でアートの実技授業 総合大学こそ芸術教育を」日経産業新聞、2020年3月13日、日本経済新聞電子版、2020年3月28日再掲.
 - ・「美術評論家連盟設立の経緯」『美術評論家連盟会報』第20号(2019年11月).
 - ・「中国の美術評論家との交流」『美術評論家連盟会報』第20号(2019年11月).
 - ・「芦屋市立美術博物館の存続問題に関する声明書について」『美術評論家連盟会報』第20号(2019年11月).
 - ・「東大教員有志が「あいち」不交付に抗議したわけ 学問の自由への懸念、国の信用にもかかわる」『論座』(2019年10月14日).
 - ・「ノア・チャーニイ『失われた芸術作品の記憶』 日常にある破壊や廃棄」共同通信配信

記事(北国新聞、2019年8月24日、南日本新聞、2019年8月25日、山梨日日新聞・徳島新聞・愛媛新聞・京都新聞・福井新聞、2019年9月1日、中国新聞・山陰新聞、2019年9月8日、神戸新聞2019年9月29日等)。

- ・「東京大学芸術創造連携研究機構について」『美術の窓』第38巻第7号(2019年7月)、147頁。
- ・「パブリックドメイン作品の画像利用の自由化」『AAC : Aichi Arts Center』100(2019年6月)、14頁。
- ・「美術作品 考古学資料から現代美術まで」東京大学教養学部編『東京大学駒場スタイル』(東京大学出版会、2019年)、190 - 191頁。
- ・「保存修復」美術手帖編『これからの美術がわかるキーワード100』(美術出版社、2019年)、74 - 77頁。

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

英語中級(クラス指定ターム型)(S)

英語中級(クラス指定セメスター型)(A)

美術論(S)

(2) 後期課程担当科目

表象メディア論(A)

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

愛知県立芸術大学大学院美術研究科博士理論研究Ⅱ

金沢美術工芸大学美術工芸学部日本絵画史特講

3. 学内行政業務

総合文化研究科長特任補佐、芸術創造連携研究機構副機構長・運営委員、東京大学内の文化資産に関するタスクフォース(展覧会班)、文化資産管理・相談班ワーキング・グループ、『超域文化科学紀要』編集委員長、『アメリカ太平洋研究』編集委員、東京大学学術成果刊行助成査読者

||| 河合 祥一郎

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

1. 単著

- ・『心を支えるシェイクスピアの言葉』(あさ出版、2020年1月)

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・「狂言「鮎」の味わい深さ」、『PLAT NEWS』豊橋文化振興財団情報誌 vol. 38, p. 4
- ・Stage『BLUE/ORANGE』、『中央公論』2019年5号 p. 20
- ・Stage加藤健一事務所『Taking Sides ~それぞれの旋律~』、『中央公論』2019年6号 p. 112
- ・「私を研究へ導いた一冊／今こそ勧めたい英文学の一冊 『不思議の国のアリス』」『週刊読書人』2019年5月24日第5面
- ・Stage『ドライビング・ミス・デイジー』、『中央公論』2019年7号 p. 20
- ・Stage『ジャスパー・ジョーンズ』、『中央公論』2019年8号 p. 24
- ・Stage『人形の家PART2』、『中央公論』2019年9号 p. 24
- ・Stage『アジアの女』、『中央公論』2019年10号 p. 24
- ・「あの東大が芸術教育を始める」(東京大学芸術創造連携研究機構長としてのインタビュー

- 記事)、『形 forme』(日本文教出版、2019年10月)
- ・ Stage『相対的浮世絵』、『中央公論』2019年11号 p. 24
 - ・ 「悪の魅力——つぶされず欲望叶える強さ」ひもとく書評欄、シェイクスピア著、松岡和子訳『リチャード三世』、鶴屋南北『東海道四谷怪談』、桐野夏生『O U T』、『朝日新聞』2019年11月23日23面
 - ・ Stage『獅子の見た夢』、『中央公論』2019年12号 p. 107
 - ・ 「すべて真実」、ちくま文庫シェイクスピア、松岡和子訳『ヘンリー八世』解説、筑摩書房、全256頁、243-250頁。
 - ・ Stage『常陸坊海尊』、『中央公論』2020年1号 p. 121
 - ・ Stage『少女仮面』、『中央公論』2020年2号 p. 121
 - ・ Stage『彼らもまた、わが息子』、『中央公論』2020年3号 p. 93
- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他
- ・ C・S・ルイス『ナルニア国物語5 シャベる馬と逃げた少年』(株式会社KADOKAWA、2019年10月)
 - ・ シェイクスピア『新訳 アテネのタイモン』角川文庫(角川書店、2019年10月)
 - ・ ヒュー・ロフティング『新訳 ドリトル先生アフリカへ行く』角川文庫(株式会社KADOKAWA、2020年2月)
 - ・ ヒュー・ロフティング『新訳 ドリトル先生航海記』角川文庫(株式会社KADOKAWA、2020年2月)

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目 総合科目演劇論Ⅱ、英語中級(総合科目L)
- (2) 後期課程担当科目 イギリス表象芸術論、舞台芸術論Ⅱ、専門英語、表象文化論基礎論演習
- (3) 大学院担当科目 T A 演習、パフォーマンス・アーツ論Ⅱ

3. 学内行政業務

東京大学芸術創造連携研究機構長。英語部会教養英語運営班サブチーフ

カペル・マチュール

2. 教育実績

- (2) 後期課程担当科目
 - 映像芸術論Ⅰ
 - 表象文化論実習Ⅱ
- (3) 大学院担当科目
 - 文化ダイナミックス演習Ⅲ
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
 - PEAK Specialized Seminar

3. 学内行政業務

GSI運営委員会、GSI WINGS 運営委員会

|| 韓 燕麗

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

- ・「中国語映画の『戦後』——女優李麗華とその主演作品を中心に」『アジア遊学』No.247 (勉誠出版、2020年3月)pp. 182-195.

(3) 学会、研究会発表

- ・「第三の映画、第三世界の映画、第三世界主義の映画、第三世界美学」『支配と抵抗の映像文化』合評会 (於法政大学麻布台セミナーハウス)、2019年7月21日.
- ・鼎談：「知られざる中国映画の発祥——上海映画の血沸き肉踊る歴史」、『銀幕発光——中国映画の伝来と上海放映興業の展開』刊行記念会 (於ESPACE BIBLIO)、2019年5月11日.
- ・招待講演：「有容乃大 兼容并包——从新中国电影到新时代的中国电影」(新中国電影から新時代の中国映画へ) 全球視野下的新中国電影七十年學術論壇 (於北京師範大学)、2019年4月8日.

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

中国語一列、共通中国語精読、映画論

(2) 後期課程担当科目

表象文化史演習

(3) 大学院担当科目

イメージ分析論 I、II

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

関西学院大学四年次ゼミ (集中講義)、明治学院大学中国文学 I、II

3. 学内行政業務

JEA 委員、ハラスメント防止委員

|| 桑田 光平

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

- ・「芸術家とモデル——ジェイムズ・ロードとジャック・デュパン」、『Art Trace Press』、第5号、Art Trace、2019年6月、212-223頁。

(3) 学会、研究会発表

- ・トークイベント「喩の危機／危機の喩」、阿部嘉昭＋カニエ・ナハ＋桑田光平＋野村喜和夫、思潮社&エルスール財団共同企画、野村喜和夫『危機を生きる言葉』刊行記念、2019年11月30日、於・エルスール財団 (東京)。
- ・« On the Concept of Surface— A Short Remark on Japanese Postmodernism in Literary Criticism », 国際シンポジウム World Literature as Japanese Literature, 2020年1月7日、於・NYU (アメリカ)。
- ・トークイベント「アート・アーカイヴ資料展 XX: 影どもの住む部屋 II— 瀧口修造の〈本〉」、

笠井裕之+久保仁志+桑田光平+鈴木一平+山本浩貴+山腰亮介、慶應義塾大学アート・センター企画、2020年2月21日、於・慶應義塾大学アート・センター(東京)。

(4) 書評、記事、エッセイ、その他

- ・「ロラン・バルトとシュルレアリスム」、『短刀の葡萄酒 vol.1』、詩の練習、2019年9月、12-15頁。
- ・坂本泰宏、田中純、竹峰義和編『イメージ学の現在 ヴァールブルクから神経系イメージ学へ』(東京大学出版会)『教養学部報』612号、2019年10月1日刊行。
- ・「世界を描くための喩——喩の危機／危機の喩」(阿部嘉昭+カニエ・ナハ+桑田光平+野村喜和夫)、『現代詩手帖』、2020年2月号、思潮社、60-73頁。
- ・「海外文学・文化回顧 2019フランス」、『図書新聞』、2019年12月21日号。
- ・「フランス文学」、『ブリタニカ国際年鑑』、ブリタニカ・ジャパン、2020年4月。

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

- ・エマ・ラヴィーニュ「音の生態系」、『シンコペーション：世紀の巨匠たちと現代アート』、公益財団法人ポーラ美術振興財団ポーラ美術館、2019年、4-5頁。
- ・ジェラルド・マセ『つれづれ草』、水声社、2019年12月、全291頁。
- ・ユベール・ダミッシュ『カドミウム・イエローの窓』(松浦寿夫ほかとの共訳)、水声社、2019年12月、全341頁(うち第4章 100~119頁)。
- ・『影どもの住む部屋II—瀧口修造の〈本〉』展覧会(慶應義塾大学アート・センター)、カタログ作成、2020年1月。

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

フランス語一列①、フランス語中級(読解)、フランス語初級(演習)、フランス語初級(演習)②

(2) 後期課程担当科目

表象文化基礎論演習

(3) 大学院担当科目

表象文化論実験実習II、超域文化科学演習I、超域文化科学演習II、超域文化科学特別演習I

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

国際基督教大学「フランス詩II」

放送大学「フランス語I(‘18)」

筑波大学「文化創造論演習I」(集中講義)

3. 学内行政業務

美術博物館委員、学生相談所運営委員

||| 清水 晶子

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

- ・SHIMIZU, Akiko. “From Backlash to Online Trans-exclusionism: Response to the lecture by Prof. Peto”, *Gender and Sexuality: Journal of the Center for Gender Studies, ICU*, No.15, pp.59-67, 2020.

- ・清水晶子、「埋没した棘——現れないかもしれない複数性のクィア・ポリティクスのために」、『思想』No.1151、pp.35-51、2020。

(3) 学会、研究会発表

- ・「多様性の可視化がもたらす意義と課題:クィア・ポリティクス、商品化、ハイパー・ヴィジビリティ」、JSSGS2019年度学会基調講演(招待講演)、松本大学、2019/6/29。
- ・“From Backlash to ‘LGBT’ Movement and Beyond: The Moral Conservatives and Feminist/Queer Left Politics in Japan”, ECPG2019 (Amsterdam University), 2019/7/5.
- ・“LGBT Diversity and the Queering of Tokyo”(招待講演)、Inagaki 11 Seminar, University of Melbourne, 2019/10/15.
- ・“Imported Hatred?: Japan’s Transphobic Feminism in Transnational Context”(シンポジウム登壇)、「国際シンポジウム:トランスジェンダーが問うてきたこと」、お茶の水女子大学、2019/12/15.
- ・“‘Imported’ Feminism and ‘Indigenous’ Queerness: From Backlash to Transphobic Feminism in Transnational Japanese Context”(招待講演)、UC Berkeley, 2020/1/28.

2. 教育実績(サバティカルのため授業担当はなし)

3. 学内行政業務

サバティカルのため、学内業務はひとつをのぞきなし。例外として、全学男女共同参画委員(IARU会議担当)。

||| 高橋 哲哉

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

- ・「[基地引き取り論]とは何か 鹿野政直氏・新城郁夫氏の批判に応答する」ウェブ『論座』2019年9月9日
- ・「[基地引き取り論]がめざすもの さらに鹿野政直氏・新城郁夫氏の批判に応答する」ウェブ『論座』2019年10月10日

2. 共著

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・「沖繩の米軍基地を本土へ 市民の「引き取り」運動が問うもの」『Journalism』349号、2019年6月、朝日新聞社、62-69ページ
- ・「なぜ本書は画期的な書物となったのか」野村浩也著『無意識の植民地主義』松籟社、2019年8月、解説、357-367ページ

2. 教育実績

(3) 大学院担当科目

文化ダイナミクス演習Ⅱ、生命と尊厳Ⅰ、社会制度変動論Ⅰ、人間の安全保障基礎論Ⅱ

3. 学内行政業務

副研究科長(副学部長)、評議員

||| 竹峰 義和

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
2. 編著
 - ・坂本泰宏・田中純・竹峰義和編『イメージ学の現在——ヴァールブルクから神経系イメージ学へ』（東京大学出版会、2019）[執筆担当：第4章「点になること——ヴァイマル時代のクラカウアーの身体表象」(pp.113-128)]
- (3) 学会、研究会発表
 - ・【国際ワークショップ発表】「Wozu der Literaturwissenschaftler in dürftiger Zeit? Über die Krise der Literaturwissenschaften in Japan», in: Workshop: Forschen - Fördern - Evaluieren: Literatur(wissenschaft) als Projekt, ウィーン大学(オーストリア)、2020年1月16日
 - ・【招待講演】「Zur strategischen Performativität der Frankfurter Schule», ルーヴェン大学哲学科(ベルギー)、2020年3月11日

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目 Sセメスター：初修ドイツ語、共通ドイツ語(文法)
- (2) 後期課程担当科目 Sセメスター：表象文化基礎論
- (3) 大学院担当科目 Sセメスター：文化ダイナミクス演習I/国際コミュニケーション演習I/欧州特別研究V
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
Sセメスター：文学講義(立教大学)、芸術批評論(明治学院大学)

||| 田中 純

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
2. 編著
 - ・坂本泰宏・田中純・竹峰義和編『イメージ学の現在——ヴァールブルクから神経系イメージ学へ』、東京大学出版会、2019年。
3. 共著
 - ・渋谷哲也・夏目深雪編『ナチス映画論——ヒトラー・キツチュ・現代』、森話社、2019年。
- (2) 論文
 1. 単著
 - ・田中純「アビ・ヴァールブルクにおける歴史経験——イメージ学と歴史理論の接点をめぐって」、坂本泰宏・田中純・竹峰義和編『イメージ学の現在——ヴァールブルクから神経系イメージ学へ』、東京大学出版会、2019年、30～50頁。
 - ・田中純「それ(エス)の地下室(クリプト)——ゲルハルト・リヒター《ビルケナウ》」、『UP』560号(2019年6月号)、東京大学出版会、2019年、49～55頁。
 - ・田中純「「飮する言語(エコラリアス)」の歌——デヴィッド・ボウイの作品における歯擦音と喃語をめぐって」、『UP』563号(2019年9月号)、東京大学出版会、2019年、41～47頁。
 - ・田中純「夜の共同体へ——パスカル・キニャールに」、『UP』566号(2019年12月号)、東京大学出版会、2019年、23～30頁。

- ・田中純「ホロコースト表象の転換点——『サウルの息子』の触感的(ハプティック)経験をめぐって」、渋谷哲也・夏目深雪編『ナチス映画論——ヒトラー・キッチュ・現代』、森話社、2019年、50～70頁。
 - ・田中純「人びとは何を恐れているのか? —— 芸術の自由と不自由をめぐって」、『世界』第929号(2020年2月号)、岩波書店、2020年、86～94頁。
 - ・田中純「少年たち(ボーイズ)・兄弟たち(ブラザーズ)の秘密——デヴィッド・ボウイの共犯者たち」、『UP』569号(2020年3月号)、東京大学出版会、2020年、49～54頁。
 - ・田中純「デミウルゴスのかたり——磯崎新の土星(サトゥルヌス)的仮面劇」、『現代思想』48巻3号(2020年3月臨時増刊号)、青土社、2020年、166～177頁。
- (3) 学会、研究会発表
- ・フンボルト・コレク東京 2019「神経系人文学と経験美学」(2019年5月18日(土)・19日(日)、東京大学駒場キャンパス)開催責任者。
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
- ・巻頭言:田中純「経験と学問、あるいは、影を奪うために」、『表象』13号、表象文化論学会、2019年、5～8頁。
 - ・エッセー:田中純「薔薇と哄笑——『Nachleben 揺れる大地』に寄せて」、『FishBone』No.71、水族館劇場、2019年、3～4頁。
 - ・書評:田中純「友の足音を聴く」(柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』書評)、『群像』第75巻第2号(2020年2月号)、講談社、2020年、542～543頁。

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目 初修外国語(ドイツ語)
- (2) 後期課程担当科目 表象文化史
- (3) 大学院担当科目 表象技術論

3. 学内行政業務

表象文化論コース主任

||| 長木 誠司

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

- ・ディスク遊歩人:音盤街そぞろ歩き(124)オペラ:愛の壊れるとき8《トゥーランドット》(承前)
レコード芸術 68(4), 57-60, 2019-04
- ・ディスク遊歩人:音盤街そぞろ歩き(125)オペラのマルチカルチュア:菅尾友の《トゥーランドット》とヴィトマンの《バビロン》
レコード芸術 68(5), 59-62, 2019-05
- ・ディスク遊歩人:音盤街そぞろ歩き(126)オペラ:愛の壊れるとき(9)こびと,またはスペインの王女の誕生日
レコード芸術 68(6), 91-94, 2019-06
- ・マーラーとリヒャルト・シュトラウスから見た帝国終焉と再生:潤う市民社会と政治的に落ち込んでいく国家(特集 ウィーン世紀末芸術:爛熟の果実を味わう)
音楽の友 77(6), 68-70, 2019-06

- ・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き (127) シュトックハウゼン：AUS LICHT 訪問記
レコード芸術 68(7), 57-60, 2019-07
 - ・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き (128) 4つの《死の都》：コロンゴルト巡り
レコード芸術 68(8), 59-62, 2019-08
 - ・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き (129) オペラ：愛の壊れるとき (9) 《こびと、または
スペイン王女の誕生日》(承前)
レコード芸術 68(9), 57-60, 2019-09
 - ・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き (130) 日本オペラの50年：サントリー芸術財団創設
50周年に寄せて
レコード芸術 68(10), 59-62, 2019-10
 - ・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き (131) クルレンツィスの夏
レコード芸術 68(11), 59-62, 2019-11
 - ・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き (132) ドナウエッセンゲンのいま
レコード芸術 68(12), 59-62, 2019-12
 - ・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き (133) ヨーロッパの20世紀オペラ事情
レコード芸術 69(1), 63-66, 2020-01
 - ・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き (134) 女性指揮者：2020年代のさらなる躍進に向け
て
レコード芸術 69(2), 59-62, 2020-02
 - ・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き (135) ベルリン：オーケストラの新たな空間
レコード芸術 69(3), 67-70, 2020-03
- (3) 学会、研究会発表
- ・2019年5月18日 発表“Japanische Oper in der Zeit der Akkulturation” Universität der
Künste Berlin Redeneiträge Musikwissenschaftliches Forschungskolloquium.
 - ・2019年8月21日 サントリー芸術財団50周年記念シンポジウム「日本の音楽界の50年
とこれから」
ラウンドテーブル：日本の音楽界の50年とこれから パネリスト
(サントリーホール、ブルーローズ[小ホール])
 - ・2020年2月21～23日
music from JAPAN 45th Anniversary Season festival 2020 New York
第45回ミュージック・フロム・ジャパン音楽祭(ニューヨーク) プログラム構成、シン
ポジウム、招聘講演：
シンポジウム Reception of the European contemporary music since 1990s in
Japan(Feb.21, Japan Foundation, New York City)
招聘講演 Identity, what does it matter?(Feb.23, Scandinavia House Volvo Hall, New
York City)
 - ・2020年3月21～22日
Tagung „Oper und Kolonialismus“ international conference “Music theatre and
colonialism” (the Deutsches Nationaltheater Weimar (DNT) in cooperation with the
Institutes of Musicology of the University of Music FRANZ LISZT Weimar and the
Johannes Gutenberg University Mainz.)
講演 Stilles Meer von Toshio Hosokawa im Zusammenhang mit dem Nô-Theater
- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

・共同監修 会館芸術 第三期 戦後篇 全17巻(ゆまに書房)

2. 教育実績

サバティカルのためなし

3. 学内行政業務

ピアノ委員長、オルガン委員

||| ドゥヴォス・パトリック

1. 研究・研究成果の公刊

(3) 学会、研究会発表

・研究会「Secteur privé, service public: les avatars d'un couple notionnel. L'exemple du théâtre français du XVIIIe au XXIe siècle」にディスカッサントとして参加。パリ・ナンテール大学、2019年9月13日。

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

フランス語初級(演習)、フランス語中級(作文)、フランス語中級(演習)

(2) 後期課程担当科目

共通フランス語(16)(作文)、表象システム論

(3) 大学院担当科目

文化ダイナミクス実験実習I

||| 乗松 亨平

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

2. 編著

・沼野充義ほか編『ロシア文化事典』、丸善出版、2019。「リアリズム文学」(338-339頁)「現代思想」(604-605頁)を分担執筆

(2) 論文

1. 単著

・「空間の不安:一九八九年とロシア・ナショナリズムの比較文明学」、『思想』10月号、2019年、93-109頁

(3) 学会、研究会発表

・“‘System’ as a Holistic Space: Russian Old and New Eurasianisms and Structuralism,” 22nd World Congress of the International Comparative Literature Association, 於マカオ大学、2019年7月31日

・“Friendship in ‘Dark Times’: Ilya Kabakov and the Decontextualization of the Soviet Private Sphere,” International Conference “The Dynamics of Cultural Processes between Center and Periphery,” 於トビリシ大学、2019年9月6日

・「私的なものの侵犯=生成:トルストイと鉄道をめぐって」、リアリズム文学研究会公開シンポジウム「交通と文学:鉄道の時代としての19世紀」、於慶應大学、2020年1月12日

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
ロシア語科目
- (2) 後期課程担当科目
表象システム論演習、ロシア地域文化特殊演習
- (3) 大学院担当科目
表象文化論演習I、Research Workshop I-III

3. 学内行政業務

ロシア語部会教務委員、後期課程表象文化論コース副主任、総合研究棟管理委員、国際人材養成プログラム(GSP)運営委員長

||| 森元 庸介

1. 研究・研究成果の公刊

- (3) 学会、研究会発表
 - ・「『彼女は写真を口に含み…』 イメージ、あるいは曖昧さ」、シンポジウム『神経系人文学と経験美学』、東京大学、2019年5月19日。
 - ・« Que devient le politique quand le texte vacille ? », Penser, délibérer, calculer, colloque international, Villa Noailles, le 15 novembre 2019.
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
 - ・「薄暗がりのうちで：翻訳について」、『翻訳と通訳の過去・現在・未来 多言語と多文化を結んで』(南山大学地域研究センター)、p. 25-35、2020年3月。

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目 フランス語一列、二列、表象文化論
- (2) 後期課程担当科目 表象文化論実習 I、フランス文学テキスト分析、
- (3) 大学院担当科目 文化クリティシズム I、Supervised Readings II

3. 学内行政業務

教養学科長、超域文化科学分科長、超域文化科学分科表象文化論コース主任、奨学金委員